

2019年度 事業計画および予算について

I 事業概要

1. 教育研究事業

大学

「キャンパス整備」

安全で、充実した、持続可能な教育環境の整備を目的として推進されてきたキャンパス整備計画ですが、新1号館、7号館の竣工とともに、ほぼすべての建物の耐震改修工事が終わり、一連のキャンパス整備計画は終了しました。

今後は、施設の改修・設備の更新計画に基づく整備を実施していきます。

「教育改革」

2014年度から行われた学科再編とカリキュラム改訂の完成に伴い、授業科目の整理、コース制度の見直しを行います。学生の学びをさらに充実させるため、学修成果の把握と検証を進めていきます。

教職課程については、文部科学省より再課程の認定を得ましたので、2019年度より新教職課程を開始します。

「学生支援」

新しく出来上がった7号館は、学生たちの課外活動を支援する場としての役割も備え、芸術祭実行委員会室や学生会議室、裏手にはサークル棟（公認団体）も併設されています。学生の課外活動は、七夕祭、MUSICスペースなどの催事や、近隣の学校・施設等での音楽活動・指導など、近年活発化していることから、それらを一層支援します。

キャリア・就職支援では、3年生の基礎ゼミでの振り返り、キャリアカウンセラーによる面談を始め、多くの講座や説明会を開催し、引き続き学生の支援をします。

臨床心理士や精神科医によるカウンセリング、教員による面談など、学生相談のさまざまな場を引き続き提供するとともに、非常勤教員も含めた全教員によるオフィス・アワーを実施します。

「演奏活動」

演奏教育の成果として実施する定期演奏会のうち、12月のオーケストラでは、オールくりにたちによる冬の第九を演奏します。その他、親子で楽しめるファミリー・コンサート、「聴き伝わるもの、聴き伝えるもの」～20世紀音楽から未来に向けて～シリーズなども引き続き行います。6月には東京オペラシティの「コンポージアム2019」関連企画・共催公

演として「フィリップ・マヌリ室内楽作品演奏会」を開催します。昨年度から始まったミュージカルコースの修了発表も兼ねた声楽特別演奏会も新たに開催されます。

「コミュニティ・ミュージック・センター（KCMC）」

大学の教育活動とは切り離して、卒業生の学びの機会を充実させるために、専攻実技の研鑽を積むための「ディプロマ・コース」を設置しました。声楽ソリスト、ピアノ・ソロ／アンサンブル、弦楽器、管打楽器の4コースがあります。

「学生募集」

進学ガイダンス&体験レッスン、オープンキャンパス、授業公開、受験準備講習会などを「くにたちプレカレッジ」と名付け、小・中学生・高校生、音楽大学に興味のある方に、気軽に本学を体験していただくための一連のプログラムとして、一層内容の充実を図ります。

2018年度より始めた、近隣県対象「バスツアー」および個人指導者対象「レスナーミーティング」も、学生募集活動の新たな試みとして発展させていきます。

声楽、オーケストラ（弦楽）、吹奏楽のワークショップおよびピアノフェスティバルを「くにたちオープンカレッジ」と名付け、くにたちの音楽・アンサンブルを体験できる参加型プログラムとして、より充実した内容を目指します。

「入試制度」

本学では、2月に実施する一般入試のほか、9月に自己推薦入試（AO入試）、11月～12月に指定校推薦入試、一般公募推薦入試、特別給費奨学生入試を行っていますが、2020年度からは、演奏・創作学科の声楽専修、鍵盤楽器専修、弦管打楽器専修、ジャズ専修でも一般公募推薦入試を導入することになり、全学科・専修が対象となります。今後も更なる入試の改革に取り組んでいきます。

「地域貢献・社会連携」

立川市、国立市、武蔵村山市と連携・包括協定を締結し、小・中学校の音楽鑑賞教室、地域での音楽講座など充実した取り組みを行っていますが、一層の充実を図ります。武蔵村山市からの要請により、アクティブ・ラーニングの授業も引き続き開講します。

大学院

修士課程、博士後期課程とも、更なる拡充を目指し、入試、カリキュラム、教員組織など見直し、改革に取り組みます。

附属中学校・高等学校

「効果的なカリキュラム、授業の研究」

中学校の普通コースを文理コースと改名し、音楽コースとの違いを明確にして高等学校普通科特別進学コースへの人材育成を目指します。

高等学校音楽科は様々な音楽レベルに対応するためソルフェージュのグレード別授業や補習授業を行うことにより効果的なカリキュラムと授業法を構築推進していきます。

「国立音楽大学・附属小学校との連携強化」

大学には演奏、講演等を依頼し交流を活発化して中高生の大学への意識を高めていきます。また、小学校には現在行っているブラスバンド部や合唱部の訪問演奏等、小学校との交流内容を検証してより充実した音楽交流会にしていきます。

「国際交流の推進」

創立 70 周年記念行事と併せた事業として 6 月、台湾の大成国中学校、鳳西国中学校とのオーケストラ交流演奏会、7 月、ポーランド国立民族歌舞団のシロンスク合唱団ソリストテノールのピョートル・ニキエル氏によるレクチャーコンサート、同月オーストリアリンツのアーダルベルト・シュティフター・ギムナジウムの生徒によるリサイタルとソリストコンサートでの共演、9 月、ベルリンのカニジウス高校オーケストラと本校オーケストラとの合同演奏会、3 月にはイタリアのボッケリーニ音楽学校との交流を検討しており、2019 年度は例年になく多くの国際交流が目白押しとなります。

また、英語教育や音楽教育の一環としての外国への短期留学を積極的に進め幅広い視野を育成するとともに学習意欲の向上を図ります。

「演奏会等各種行事への参加」

生徒の成果発表の場となる演奏会（くにたち音楽会、オーケストラ演奏会、卒業演奏会他 3 演奏会）を例年通り開催します。また、地域事業への出張コンサートとして病院、市主催の行事（平和首長会議、国立ビエンナーレ）への演奏参加等、新たな活動を加えて積極的に取り組んでいきます。

「広報活動の推進」

KUNION 講座、くにたち de スタート等の内容を精査し、より魅力的な催しとするとともにリーフレット、Web 広告等の媒体も本校の教育や活動内容がわかりやすいようにして効果的な広報活動を推進します。

附属小学校

「小学校改革プロジェクトの推進」

日本で唯一の音大附属小学校としての特色を策定すべく 2018 年度から「音楽が脳に与える影響が他の学習でも生かされないか」をテーマに音楽が支える学力の研究活動をスタートしました。2019 年度も引き続き研究活動を推進していきます。

「教育内容の充実」

豊かな感性を育むことを目的とした音楽、造形等特色ある授業を進め、特に運動会やリトミックによる表現育成法を研究していきます。

学習面では自ら行う探究活動や問題解決学習を重視して国語力の見える化とした文集作成に留まらず外部への作品展への出展を進め、児童の個性や能力に応じた指導を行い、進んで考える力と学ぶ意欲を高めることにより基礎学力の定着化を進めていきます。また教育コンサルタントのプラスティーが開講する小学生向け教室との連携による学力向上も図っていきます。

「宿泊行事による教育」

宿泊行事として登山を導入しています。低学年は正丸峠、日光白根山、高学年は菅平四阿山と従来の登山遠足に加えて実施します。これらの体験を通して、心身を鍛え、より大きな達成感を得ることが狙いです。また、1 年生と 6 年生での防災泊も引き続き実施して早い時期から宿泊に慣れさせるとともに防災への意識向上を図っていきます。

「生活指導の徹底」

教師と子供、子供同士の人間的ふれあいを大切にして思いやりの心を育てていきます。また、集団生活上の決まりや登下校時の安全確保やマナー等の指導により児童の規律ある生活指導を徹底していきます。

「広報活動の強化」

現在の広報ツールであるホームページ、スクールガイド、学校紹介用 DVD の内容を精査して本校の特色が周知できるようにするとともに、従来の学校説明会、公開授業、プレスクール、幼児教室訪問等の広報活動に加え、新たに音楽教室への訪問活動を開始します。

「新たな課外レッスンの開講」

子どもたちの打楽器への興味が高いことから打楽器のレッスン、音楽の基礎的な知識や音感を鍛えるため、ソルフェージュのレッスンを新たに開講します。打楽器レッスンは音楽への興味促進と音楽を志す児童の増加につなげ、またソルフェージュのレッスンは基礎的な楽典、理論を理解させ音楽的な能力開発を目指していくものであります。音楽に興味を持つ児童の増加に寄与し、未来の音大生につながることを期待しています。

附属幼稚園

「質の高い保育の実現」

本園の初代園長の小林宗作が唱えた総合リズム教育である常に子供中心、かつ子供に対する温かなまなざしを教育理念を基に心も体もリズムカルに動き、様々な体験を積み重ねることができる質の高い保育の実現に努めていきます。そのため職員研修による資質の向上と協力体制を推進していきます。

「保育ニーズにあった施策の充実」

近年取り組んできた預かり保育、課外レッスン（ピアノ・ヴァイオリン）等は年々希望者が増加傾向にあるため、体制を強化してこれに対応していきます。また、未就園児対象のプレ幼稚園は入園者へとつながる効果が大きいいため更なる充実を目指します。

「地域貢献としての子育て支援事業の推進」

子育てをしている地域の方々により良い子育て環境づくりの一助として例年実施している支援事業ですが、今年度も園庭開放、親子リトミック、親子工作遊び、夏冬の親子コンサートを開催していきます。また今年度は新たに子育て講演会を企画しています。

「大学及び附属各校との交流の促進」

大学の幼児音楽教育専攻生の教育研究、研鑽の場として、また、中高生と園児の交流による職場体験の場として、小学生とは園児にとって遊びの伝承や新しい知識を享受する機会としています。大学院から幼稚園まである学校としてこれからも交流を活発に行って教育研究の更なる深まりにむけて取り組んでいきます。

「広報活動の活発化」

ホームページを活用して本園の保育の状況や行事を速やかにアップするとともに園内の生活を内外にアピールし本教育の意味や良さを発信していきます。また、在園児保護者向けの講演会を開催し本園教育の理解と子育て中の保護者の学びの場としていきます。

2.施設の整備

- ・これまで推進してきた魅力あるキャンパス整備計画の集大成として、大学に食堂及び学生ホール等の機能を有した7号館が2018年12月に完成したことにより、一連のキャンパス整備は終了しました。
- ・大学3号館の老朽化した空調設備改修は2019年度に実施します。
- ・大学6号館の老朽化した空調設備改修は2019年度に設計を行い、2021年度に完成予定です。
- ・附属中高1号館の老朽化した空調設備を更新し、個別空調に切り替えます。2018年度より実施し2019年度に完成予定です。

3.財務基盤の充実と経営管理体制の強化

大学1号館の取壊しや7号館建設が完了する2018年度までは、大口の施設支出が続きましたが、2019年度からはしばらくは施設支出が減少します。しかし、経常収支の改善を目指す上から、納付金収入の増額に繋がる施策はもとより、経費の支出削減に関する施策にも取り組んでいます。

・寄付金事業の推進

2017年度に立ち上げた7号館建設に伴う募金事業は2019年7月で終了しますので2019年度に新たな寄付金募集を実施します。これまで継続して行っている奨学寄付金と共に展開します。

・修繕、改修について

修繕、改修にあたっては、入札や相見積もりを厳格に行うことにより支出の削減に努めます。

4.法人全体

大学のキャンパス整備計画は、大学の教育・研究理念を实践するうえで必要な施設、設備を最優先に計画し、安全で充実した教育環境を整備するために進められてきました。中長期的な視点から、これらが、将来の大学規模に弾力的に対応できるように、新築と耐震改築を組み合わせで行いました。2007年度の体育館耐震工事から始まったキャンパス整備計画は、2011年度に新1号館が完成し、その後、3号館、5号館、4号館の耐震工事が進められ、2018年度の7号館の建設をもって、一段落しました。これらの工事費は約130億円に上り、全て自己資金で賄われましたが、その間、資金の減少は56億円に止まりました。資金の残高は未だ他の音大に比べれば優位にありますが、学校法人を取り巻く環境は依然として厳しく、毎年の収支を改善すべく、大学、附属校で入学者を確保するための施策を確実に遂行すると共に、人件費や物件費を圧縮するための施策を行っています。

II 予算

(金額は十万円単位を四捨五入して百万円単位で表示します)

1.事業活動収支予算

事業活動収支予算は経常収支と特別収支に大別され、経常収支の内訳は教育活動収支と教育活動外収支に区分されています。事業活動収支は、学校法人の本業となる教育事業に関わる経常的な収支と、臨時的な収支に分かれている点が特徴と言えます。

(1) 教育活動収支

(収入内訳)

学生生徒納付金収入(学納金)35億7,400万円は、前年度予算額に比べ1億2,800万円の減少が見込まれます。学納金の約80%を占める大学学部の学生数が前年比約70名減少するのが主因です。18歳人口が減少する影響もあり、学生生徒数の確保は厳しい状況にありますが、進学ガイダンスを初めとする「くにたちプレカレッジ」の充実、推薦入試制度の拡充等を通じて新入生の増加を目指しています。

経常費等補助金は、学生生徒数の減少に伴い2018年度は減額いたしますが、2019年度は前年比で微増が見込まれます。また雑収入は定年退職者の増加に伴って退職交付金が増え、前年度予算額に比べて4,800万円増額します。

(支出内訳)

教育活動支出の約6割を占める人件費は、これまで10年間継続して毎年度減少してきましたが、2019年度は前年度予算額と比べて微増します。

また、教育研究経費は償却額の減額により前年予算額より4,500万円減少します。管理経費は、7号館新築により減価償却額が増額して、前年度予算額より4,100万円増額します。

以上の結果から、教育活動収支差額は8億1,700万円の支出超過となり、前年度予算比では支出超過額は1億600万円増加しています。

(2) 教育活動外収支

主な収入は受取利息ですが、預金金利はほぼ0%に近いレベルですが、一部の資金を利率の高い債券で運用することにより、前年度予算額に比べ微増を見込んでいます。

また、2019年度は本学が運営する収益事業に利益が発生するので、これに基づき学校法人へ1,400万円の寄付をする計画です。

(3) 特別収支

主な収入は、楽器等の現物寄付となります。2019年度は施設整備に対する補助金はありませんので前年度予算額に比べ1億9,400万円減少します。

この結果、予備費を除外して考えると、経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金

組入前当年度収支差額は、7 億 300 万円の支出超過となります。基本金組入額は、大学 3 号館の空調改修や中高 1 号館の空調改修などの新規組入項目により、6 億 1,300 万円の組入額となります。また、基本金組入額を控除した当年度収支差額は 13 億 1,600 万円の支出超過となり、これに前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は 83 億 2,600 万円の支出超過になる見込です。

2. 資金収支予算

資金収支予算は、資金全体の出入りを示したものです。主な収入項目の、納付金収入や補助金収入は、事業活動収入の科目の金額と同じですが、事業活動収入には、出てこない資産売却収入や、2019 年度の収入となる前受金収入などで構成されています。また、支出項目は人件費、減価償却費を除く教育研究経費、管理経費、施設関係や設備支出や、資産運用支出として新たな債券購入予算などが計上されています。

以上の結果、予備費 5 億円を全額使用した場合には、翌年度繰越支払資金は 1 億 827 万円となり、前年予算額に比べて 8 億 4,900 万円減少する見込です。